

前立腺針生検を受けられる方へ

診察・検査の結果

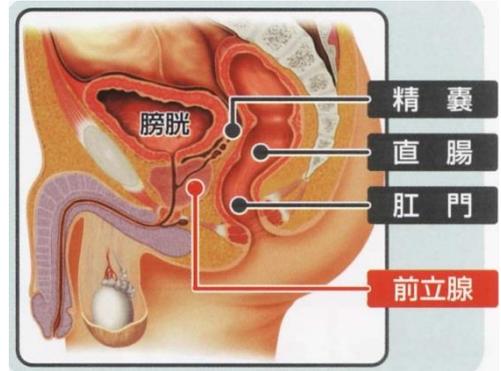
あなたに“前立腺ガンの疑いがある”と思われるため、より詳しい検査を行う必要があります。

前立腺とはどんな臓器でしょうか？

前立腺は膀胱の下にあり、尿道の一部を取り囲むように存在しています。

前立腺は、男性だけにあり、精液の一部を分泌しています。

直腸の前面に接しているため、肛門から指で触ることができます。



前立腺ガンは誰がかかりやすく、どんな症状が出るのでしょうか？

前立腺ガンは高齢の男性に発生しやすく、欧米諸国では男性のガンの中で発生率は第1位、日本でも急増しており第2位となっています。

初期は症状がほとんどありませんが、進行すると尿道を圧迫して排尿障害や血尿などが出現したり、骨に転移して頑固な骨の痛みを引き起こしたりします。

初期のガンは手術療法や放射線療法で完全に治癒しますが、進行すれば治療が困難となり、やがて死に至る場合もあります。

最近では血液検査で腫瘍マーカーのPSAを調べて、高い確率で無症状の前立腺ガンを見つけることができる様になりました。

ピーエスエー

PSAとは何でしょうか？

前立腺特異抗原とも言い、前立腺組織で作られて精液に分泌される糖タンパクです。したがって精液中には多量に含まれています。また前立腺がある人、つまり男性では誰でも血液中にある程度検出されます。

前立腺ガンでは正常前立腺より血液中にPSAが入りやすいため、ほとんどの前立腺ガン患者ではPSAの値が高くなります。

前立腺ガン以外のガンでは高くなりませんが、前立腺炎・前立腺肥大症や前立腺の触診などでも高くなる場合があります。

PSA値が高いからといって必ずしも前立腺ガンがあるわけではありませんが、PSAが高ければ高いほど前立腺ガンの可能性は高まります。

通常、正常値は4ng/ml以下ですが、年齢、前立腺の大きさで正常の範囲は変化します。詳しくは主治医にお聞き下さい。

PSA値と前立腺ガンが診断される一般的な可能性

PSA (ng/ml)	ガンのある確率	解 釈	方 針
3未満	まれ	正 常	機会があればPSA検査を行って下さい。
3～3.9	10%余り	60才以上なら正常 50～59才 疑陽性	条件によっては針生検をお勧めします。 生検が不要でも1年に1回PSA検査をお勧めします。
4～9.9	1/4～1/3	疑 陽 性 (グレイ・ゾーン)	針生検を勧めます。
10～29.9	1/2	陽 性	ガンを疑い針生検が必要です。
30以上	2/3以上	陽 性	ガンを疑い早急に針生検が必要です。

どんな人が精密検査を受ける必要があるのでしょうか？

表のとおり、PSAが4ng/ml以上に高ければ、前立腺ガンの可能性があるのをさらに詳しい検査をする必要があります。

PSAが高くなくても、ガンは正常な組織より硬いため、前立腺の触診で固い部分があれば前立腺ガンの可能性が高くなります。

前立腺ガンの有無をはっきりさせる診断方法は何ですか？

前立腺ガンかどうかを診断するためには、前立腺に針を刺して前立腺組織の一部を採取してガンの有無を確認しなければなりません。これを「前立腺針生検」といいます。

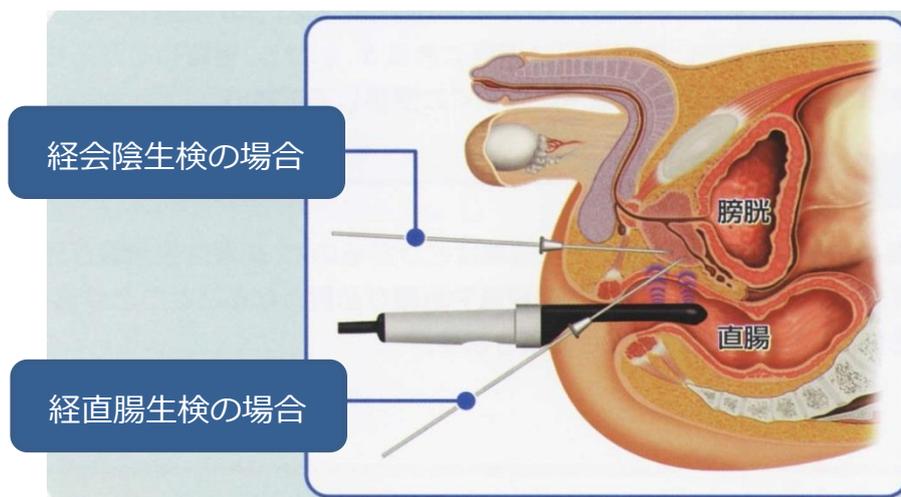
実際には、肛門から超音波装置を挿入し、前立腺を観察しながら針を刺します。針をどこから刺すかによって2通りの方法があります。

一つ目は経直腸生検と言って肛門から針を入れて直腸を通して前立腺を穿刺する方法です。この場合は痛みがそれほど強くないので麻酔は不要です。特殊な事情がある場合は下半身麻酔を行います。生検当日から翌日までの1泊2日の入院となります。

二つ目は経会陰生検と言って陰嚢と肛門の間の皮膚を貫いて前立腺を穿刺する方法です。この場合は痛みが強いので下半身麻酔が必要となります。生検前日から生検翌日までの2泊3日の入院となります。

当院では初回は原則として経直腸生検を行っています。たくさん針を刺した方がガンの発見率が高くなりますが、後で述べる合併症の危険も高くなります。当院では基本的に前立腺の左右から5本ずつ計10本を採取しています。MRIや超音波検査で異常所見がある場合などは本数を増やすことがあります。

超音波工コーおよび前立腺生検



検査にはどんな合併症がありますか？

以下の3つが主な合併症です。

①出血・血尿・血便・血精液

針を直腸から刺しますので便に血が混じりますし、前立腺は尿道と通じているため、尿(特に出始め)に血が混じります。精液に血が混じることもあります。

多くは約1週間から10日ほどで自然に消失します。

抗凝固剤(血が固まりにくくなるお薬)を飲んでいると、出血が止まりにくくなる可

能性があるので、飲んでいらっしゃる方は処方医と相談して、問題なければ数日から約 1 週間ほど前からこれらのお薬を中止していただきます。

②感染(前立腺炎)

十分な感染対策を講じても、2～3%ほどの確率で前立腺に菌がついてしまい、炎症を起こすことがあります(前立腺炎)。炎症を起こすと、発熱するほか、前立腺が腫大して排尿困難や頻尿・排尿痛などが出現します。その様な場合は炎症が治まるまで点滴治療を行うため、入院期間が延びます。

③尿閉(尿が出せなくなる)

もともと前立腺が大きく、排尿困難がある方では、検査により前立腺が多少腫れまですし、痛みなどで一時的に排尿感覚が狂ってしまうこともあり、検査後に尿が出せなくなってしまうことがあります。

検査の前の注意事項

直腸内には便があり、大腸菌などの細菌が多いので、上記の前立腺炎の予防のため、当日抗生物質(細菌を殺す薬)を飲んで頂きます。点滴抗生剤を併用することもあります。検査の前には便通を整えるようにしましょう。

その他に知っておいていただきたいこと

経会陰生検を行う方、経直腸生検を行う方で肛門が狭く器具を入れにくい方や少しの痛みでもダメな方は下半身麻酔をします。麻酔をすれば、それに伴った合併症(アレルギー・血圧低下など)の可能性もあります。合併症が無ければ、基本的に検査翌日に退院できます。しかし、退院してからも発熱する場合がありますので、その様な場合にはすぐに受診して下さい。

検査結果はいつわかるの?

検査結果が出るまでには1週間から2週間ほどかかるので、結果は主治医が外来でお話しします。検査結果によっては追加の検査や治療が必要となることもありますが、その様な場合には、その都度、説明させていただきます。

あなたの PSA 値は _____ ng/ml です。

〒457-8510

名古屋市南区三条 1-1-10

TEL 052-691-7151

独立行政法人地域医療機能推進機構 中京病院 泌尿器科